

「ガーデンシティ函館」の 実現をめざして (たたき台)



Vancouver, Canada

1	ガーデンシティ函館について	1
	(1) 背景	
	(2) ガーデンシティ函館とは	
	(3) 重点推進期間	
2	ガーデンシティ函館の基本理念	3
3	ガーデンシティ函館 イメージ	5
4	エリア設定	7
5	エリア別コンセプト	8
6	エリアイメージ	10
	西部地区 エリアイメージ	
	駅前・大門地区 エリアイメージ	
	本町・五稜郭地区 エリアイメージ	
	湯の川地区 エリアイメージ	
7	ガーデンシティ函館の実現に向けた主な実施事業	15



1 ガーデンシティ函館について

(1) 背景

函館市は、歴史や景観、グルメなど多くの観光資源を有し、民間調査会社による都市の魅力度調査において高い評価を受けています。

また、近年では台湾、中国との国際定期便の就航により、海外からの観光客は過去最高を更新し、大型クルーズ船の寄港の増加や中心市街地活性化事業の進展などにより、まちに新たな賑わいが生まれています。

このようななか、平成28年3月、北海道新幹線が開業したことで、これまで以上に国内外から観光客が増加することが見込まれており、今後、新幹線時代を見据え、交流人口の拡大を背景としたまちづくりを加速しなければなりません。

国においては、平成32年の「オリンピック・パラリンピック東京大会」に向けて訪日外国人旅行者数4,000万人をめざしており、北海道でも300万人をめざしています。

本市においては、北海道内の自治体をはじめ、青森、弘前、八戸など青森県域や新幹線沿線など多くの自治体と広域連携の取り組みを進めてきていることから、新幹線はもとより、新千歳、青森、仙台など各空港との連携などにより、外国人観光客100万人の早期の達成が期待されています。

また、北海道新幹線は平成42年度に札幌市への延伸が予定されており、札幌延伸によって、函館～札幌間は約1時間で結ばれることから、既に新幹線によって1時間、2時間30分で結ばれている青森、仙台とともに、北日本における新たな広域観光圏・経済圏の形成をめざすこととなります。

今後、本格化する人口減少社会において、このような、新幹線の開業効果を将来において持続させ、函館再生を図るためには、これまでのような観光資源やイベントに頼るまちづくりを転換し、15年後、20年後を見据えた長期的なまちづくりに取り組む必要があります。



1 ガーデンシティ函館について

(2) ガーデンシティ函館とは

これまで20年以上かけて整備してきた西部地区の坂道や歴史的建造物などの街並みが今、函館観光の中心的存在となっているように、歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い美しい街並みを整備し、函館のまちが、緑あふれる街全体がテーマパークのような、見て、歩いて、感じて楽しい、美しいまちになるよう、長期的なまちづくりに取り組むものです。

住む人も、訪れる人も、だれもがこのまちで過ごす時間を幸せに感じられるまちをめざし、点在する観光資源を道路などの線で結び、さらに面としての整備をすることで、函館の魅力に磨きをかけて、まちを進化させていきます。

(3) 重点推進期間

2016年度～2030年度（15年間）



2 ガーデンシティ函館の基本理念

基本方針

- ・ 住む人や訪れる人が、見て、歩いて、感じて楽しいまちづくり
- ・ まちの魅力向上による賑わいの創出と交流人口の拡大
- ・ 将来にわたって持続する国内屈指の函館ブランドの確立

主要施策

- ① 歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い都市空間の形成
- ② 花と緑にあふれる美しいまちづくり
- ③ 地区の特性に配慮した、統一感のある街並みの形成
- ④ 既存の観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出

【キーワード】

既存のストック

街並み

異国情緒

五稜郭

歴史的景観

夜景

etc.

+

街並みの統一感・デザイン性

美食・グルメ

イベント

函館山

雪

温泉

ウォーターフロント

花

緑



函館観光の進化・まちの魅力を高める



2 ガーデンシティ函館の基本理念

【主要施策の推進】

① 歴史と景観に配慮した、デザイン性の高い都市空間の形成

- ◇中心市街地，メインストリート，駅・港・空港での道路・緑化整備
- ◇都市空間形成に資する民間事業への支援

② 花と緑にあふれる美しいまちづくり

- ◇市民意識の醸成
- ◇市民協働による植栽管理
- ◇建物，道路と連携した統一感のある植栽の促進

③ 地区の特性に配慮した，統一感のある街並みの形成

- ◇西部地区，駅前・大門地区，本町・五稜郭地区，湯の川地区での整備
- ◇中心市街地活性化事業との連携
- ◇国，北海道との連携による事業の推進

④ 既存の観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出

- ◇イベントの組織化・体系化による情報発信の強化
- ◇函館山，ウォーターフロントほかの整備拡充

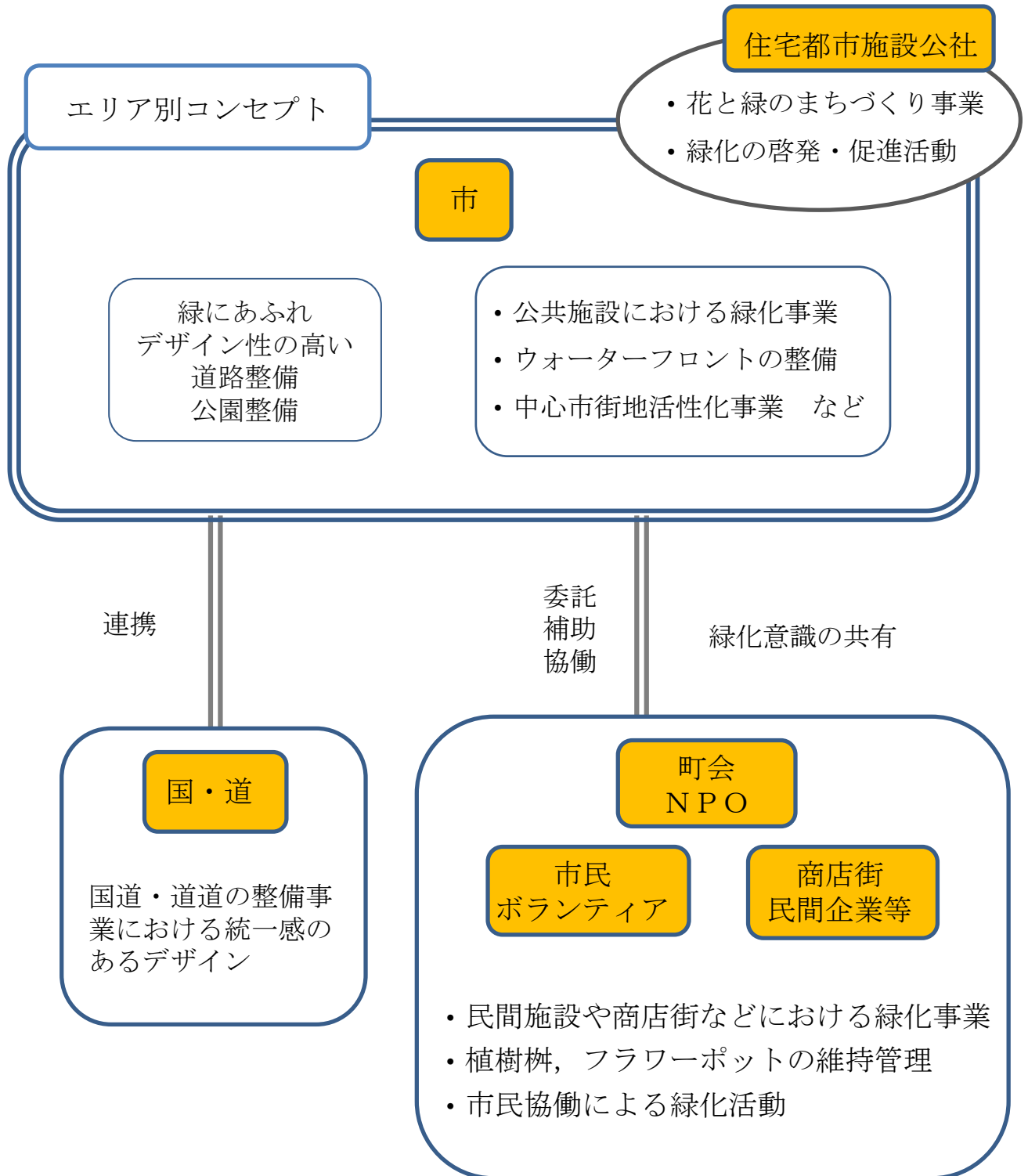
3 ガーデンシティ函館 イメージ



西部地区で培った街並み整備の手法を地区の特性を生かして函館全域に広げ、陸・海・空の玄関口やメインストリートに花を演出するなど、美しい街並みを有する都市として進化させる。



3 ガーデンシティ函館 イメージ



4 エリア設定



- 対象地域は全市域とし、特に重点的に事業推進する4地区（重点推進エリア）を設定する。
- 市民・観光客の動線を意識し、重点推進エリア間の連続性にも配慮する。

重点推進エリア

西部地区

我が国最初の国際貿易港として、諸外国の文化が流入し、異国情緒漂う街並みが形成される、函館を代表する地区

駅前・大門地区

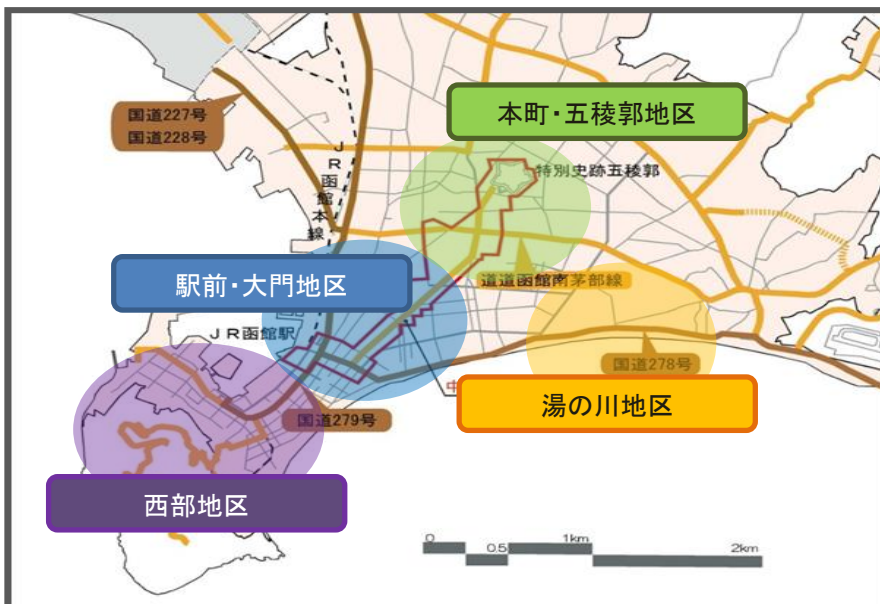
長年にわたり、北海道と本州を結ぶ交通の要衝として、行政、経済、文化の核として大きな役割を果たしてきた函館の中心地区

本町・五稜郭地区

商業・業務機能が集積し、文化・教養・スポーツレクリエーション施設を有する賑いのある都市活動拠点地区

湯の川地区

温泉資源に恵まれた温泉保養地として、古くから独自の発展を遂げてきたリゾート地区





5 エリア別コンセプト

エリア	コンセプト	コンセプトワード
西部地区 	DNAを継承した進化と保存の共存	<ul style="list-style-type: none">・ 異国情緒と懐かしさが感性に響くまち・ 開港の歴史と文化が息づく函館発祥の地・ 住み続けて磨かれる新しいまち景観への進化
駅前・大門地区 	オールド・ニュー～人々の繋がりとふれあい	<ul style="list-style-type: none">・ 市民と観光客がふれあう函館のエントランス・ どこか懐かしい薫りがする多世代間の交流の場・ 生活・交通・経済のクロスエリア
本町・五稜郭地区 	クロスタウン～人々の暮らしを繋ぐ拠点	<ul style="list-style-type: none">・ 人・交通・情報が交錯する函館の中心・ ビジネス・商業・歓楽が共存する賑いのまち・ 文化と学びの回廊
湯の川地区 	温泉街ルネサンス	<ul style="list-style-type: none">・ 浴衣でそぞろ歩く温泉街・ やすらぎの癒し空間・ はこだてリゾート

都市空間形成のための手法	キーポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ 五感に訴える新しいアプローチ ・ 歩きたくなる仕掛けづくり ・ 坂道を軸にして海を見下ろす景観を美しく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元町地区 ・ ウォーターフロント ・ 十字街 ・ 開港通り
<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前をエントランスとし、他の地域へ人が回遊する仕掛けづくり ・ 建物の高さや色、ストリートファニチャーなどによる歩行者視点での視覚の一貫性 ・ 港とまちの繋がりを考えたゾーニング 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR函館駅前 ・ 駅前通り ・ 大門グリーンプラザ ・ 東雲広路
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しみながら歩くことのできる動線を設定 ・ 通り一本入ると雰囲気が違うおもしろいまち ・ 電停から五稜郭公園方向へ誘導するための空間デザインの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 五稜郭公園 ・ 本町地区 ・ 千代台公園 ・ 高砂通り
<ul style="list-style-type: none"> ・ 温泉街をそぞろ歩けるような環境づくり(散策路・親水歩行コースなど) ・ 温泉街と商店街を繋ぐ動線の創造 ・ 温泉街をひとつの公園として考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湯の川温泉街 ・ 函館アリーナ ・ 熱帯植物園 ・ 漁火通り

(函館市美しいまちづくり検討会提言「美しい都市空間の形成を目指して」より一部抜粋)

6 エリアイメージ



観光資源に新しい魅力をつひとつつ加え、点から線、線から面へのまちづくりへ





DNAを継承した進化と保存の共存

- ・ 五感に訴える新しいアプローチ
- ・ 歩きたくなる仕掛けづくり
- ・ 坂道を軸にして海を見下ろす景観を美しく



A 【末広地区緑地】

- ・ 遊歩道の整備
- ・ ベンチ，照明灯の設置
- ・ 護岸整備
(大町地区泊地護岸のイメージ)

B 【高田屋通・銀座通】

- ・ 歩道の広幅員化
高質空間化
- ・ ラウンドアバウトの導入
シンボルツリーの設置
既存観光動線の拡大



C 【中臨港通】

- ・ 高木の配置
- ・ 函館駅から西部地区を結ぶ動線



オールド・ニュー ～人々の繋がりとふれあい

- ・ 駅前をエントランスとし、他の地域へ人が回遊する仕掛けづくり
- ・ 建物の高さや色、ストリートファニチャーなどによる歩行者視点での視覚の一貫性
- ・ 港とまちの繋がりを考えたゾーニング



A

【函館駅前通】

- ・ 電線類地中化工事（国事業）
- ・ 市電ちよう架線の整理
- ・ 歩道舗装の整備，歩道照明柱の設置
（シンボル照明柱2基設置）
- ・ 季節感ある街路樹の植栽



B

【東雲広路】

- ・ 余裕をもった歩行区域や植栽スペースの確保
- ・ 沿道との連携による緑化・美化
- ・ ベンチや案内表示など歩きたくなるみち



C

【高砂通り】

- ・ まちなみに同調したデザイン
- ・ 車道・歩道の高質化
（石畳，インターロッキングブロックによる舗装）
- ・ 統一性を持ったデザイン照明





クロスタウン～人々の暮らしを繋ぐ拠点

- ・ 楽しみながら歩くことのできる動線を設定
- ・ 通り一本入ると雰囲気が違うおもしろいまち
- ・ 電停から五稜郭公園方向へ誘導するための空間デザインの工夫



A

【千代台公園】

- ・ マラソン大会等スポーツで訪れる人や市民が散策できる場の整備



C

【商業・交通の中心】

- ・ 交通結節点としての整備（バス停の整備等）
- ・ 街路灯や花壇等の整備



B

【五稜郭電停から五稜郭公園への誘導】

- ・ 映画館，美術館等と連動したイベント
- ・ 歩いておもしろい裏道
- ・ 立ち止まりたくなる場所



温泉街ルネサンス

- ・ 温泉街をそぞろ歩けるような環境づくり
- ・ 温泉街と商店街を繋ぐ動線の創造
- ・ 温泉街をひとつの公園として考える



A 【熱帯植物園の整備】

- ・ 老朽化した熱帯植物園の改修
- ・ 外国人観光客の呼び込み

B 【温泉街】

- ・ 散策道・親水歩行コースの整備
- ・ 土産物屋や遊技場等の整備
- ・ 電停から温泉街まで緑や花を使った動線の整備



C 【函館アリーナ】

- ・ スポーツ大会，コンベンションで訪れる人が観光しやすいような動線の整備

7 ガーデンシティ函館の実現に向けた 主な実施事業



ハード系事業

●デザイン性の高い統一感のある道路整備

- * 照明灯・街路灯の更新・増設
- * 街路樹の入替え／植樹柵の増設

土木



●ウォーターフロントの整備 (末広地区緑地)

港湾

●中心市街地活性化事業 (駅前道路整備／グリーンプラザ整備)

経済

●函館山の遊歩道整備

土木

●熱帯植物園の整備

土木

●千代台公園の整備

教育

●公園整備

土木

●公共施設における緑化事業(花壇整備等)

各部

●街路灯整備(市直営事業／補助事業)

市民

観光

など

ソフト系事業

●市民協働による緑化推進事業

土木

市民

経済

●緑化啓発・促進活動

土木

●整備街路を活用した誘客事業やイルミネーション

観光

経済

など

7 ガーデンシティ函館の実現に向けた 主な実施事業



主要施策	推進時期		
	前期	中期	後期
① 歴史と景観に配慮した，デザイン性の高い都市空間の形成			
十字街電線共同溝工事	○	○	
函館駅前通整備（中心市街地活性化事業）	○		
グリーンプラザ整備（中心市街地活性化事業）	○		
照明灯・街路灯の更新・増設	○	○	○
② 花と緑にあふれる美しいまちづくり			
函館駅前花いっぱい事業	○	○	○
千代台公園の整備	○	○	○
街路樹の入替え・植樹柵の増設	○	○	○
公共施設等における緑化事業（花壇整備等）	○	○	○
③ 地区の特性に配慮した，統一感のある街並みの形成			
高田屋通・銀座通の整備		○	○
中臨港通整備	○		
熱帯植物園の整備	○	○	
観光案内板の整備	○	○	○
④ 既存の観光資源の磨き上げと新たな観光資源の創出			
函館山の遊歩道整備	○	○	○
末広地区緑地の整備	○		
イルミネーションの整備	○	○	○
電停から五稜郭公園への誘導		○	○

前期計画 …… H28～H32
 中期計画 …… H33～H37
 後期計画 …… H38～H42
 ※斜字は整備年次未定

